



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

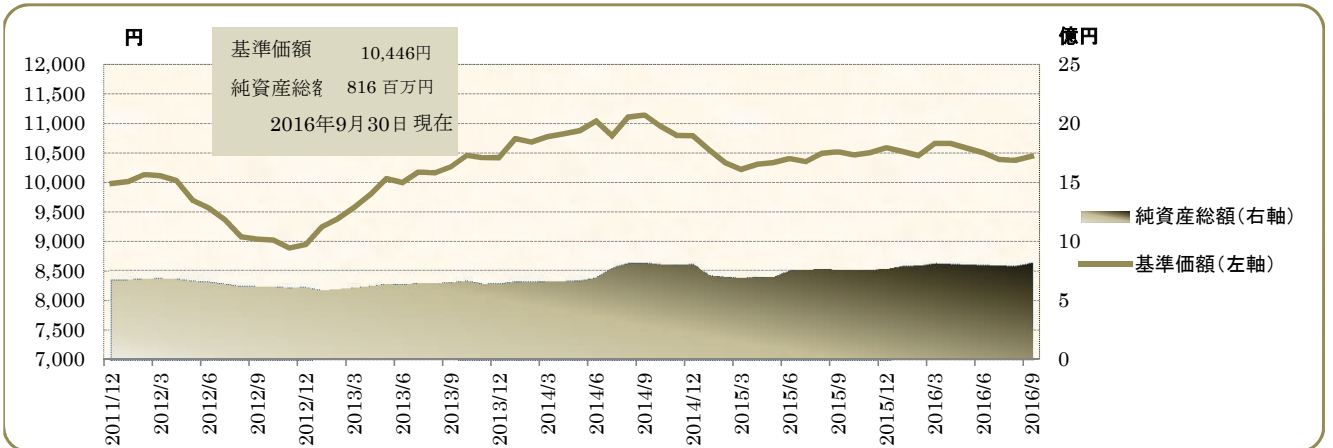
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2016年9月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

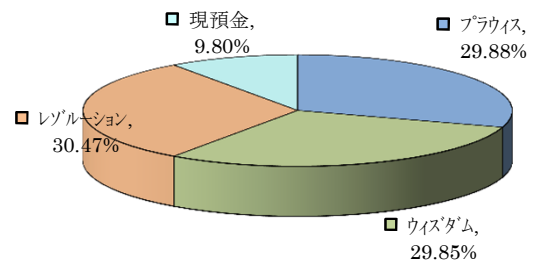
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%				-1.39%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2016年9月30日	
基準価額:	10,446円	対前月比 70円
純資産総額:	816百万円	対前月比 +27.5百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.57%
基準価額騰落率	6ヶ月	-2.04%
設定来	ファンド	4.46%
基準価額騰落率	TOPIX	82.82%
	日経平均	95.79%

投資対象ファンドへの資産配分 (2016年9月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%				-2.87%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%				-5.67%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%				12.09%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

9月の株式相場は、日経平均で2.59%下落の16,449.84円、TOPIXで0.51%下落の1,322.78ptとなりました。月初は上昇しましたが、月末に向けて下落基調となりました。

上旬は、小幅に上昇しました。中国PMIの改善や米雇用統計の結果を受け、円安・ドル高が進み上昇しましたが、米経済指標や日銀副総裁の発言を受け円高となると、上げ幅を縮小させました。

中旬は、こう着状態となりました。米早期利上げ観測の高まりから世界的な株安、金利上昇、円高基調となり、主力の外需株や金融株を中心に下落しました。その後、日米の金融政策決定会合を前に上昇し、方向感のない展開となりました。

下旬は、上昇した後には上げ幅を縮小する展開となりました。日銀による長短金利操作付き量的・質的金融緩和策の導入や、OPECの原油減産合意などを好感し、金融株や資源関連株などが買われましたが、FRBの利上げ見送りや欧州の銀行不安などを受け、円高傾向となり上げ幅を縮小させました。

需給面では、海外投資家が2ヵ月連続で売り越しとなった一方、証券会社の自己売買部門の買い越しが目立ちました。

セクター別騰落率では、水産・農林、石油・石炭、小売、医薬品、食料品が上位となり、銀行、証券、輸送用機器、保険、鉄鋼が下位となりました。内需業種、ディフェンシブ業種が買われる一方、欧州大手金融機関の経営不安から、金融セクターがアンダーパフォームしました。

東証一部の売買代金は1日当たり1.98兆円と14年8月以来初めて2兆円を下回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが2.3%の上昇、東証マザーズ指数は4.9%の上昇となり、中小型株優位の展開となりました。

ファクター面では、7,8月に見られたバリュー好調のトレンドが一般化し、低PERや低PBRなどのバリュー指標がマイナスとなった一方、ROEやモメンタムファクターは好調となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

＜ファンド運用状況＞

9月の運用成績はJPYクラスで+0.59%となりました。7,8月のリバーサル相場で売られすぎた好業績の内需銘柄がリバウンドしたことや、医薬、陸運セクターで割安・割高の修正があったことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、小売、医薬品、陸運、REIT、化学セクターでプラスとなり、電力ガス、食品セクターでマイナスとなりました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

10月の株式市場は引き続き揉み合いの相場展開を想定します。輸出関連企業を中心に下方修正リスクはありますが、現在の株価水準にはある程度織り込み済みと思われます。需給面では日銀のETF買いによる株価下支え効果もあり、下値不安も乏しいと考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

＜ファンド運用状況＞

9月の運用成績はJPY-Fクラスで0.52%でした。7月からの金融、景気敏感、バリュー株が急反発するリバーサル相場が一般化し、ディフェンシブ、グロース株がアウトパフォームしましたが、ディフェンシブセクター内の出遅れ好業績のリバウンドによりプラスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでアウトソーシング(2427)、江崎グリコ(2206)、ショートポジションでジャパンホテルリート投資法人(8985)、ミツミ電機(6767)がプラス収益に寄与しました。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

10月の株式市場は底堅く推移すると予想します。理由は、1)米国の年内利上げ観測から円高リスクが限定的であること、2)国内企業の企業業績は為替100円/ドルまで業績下方リスクを一旦織り込んだと考えられること、が挙げられます。但し、米国大統領選でトランプ氏が優位となることや米国経済の予期せぬ減速が株式下落リスクと考えられます。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

＜ファンド運用状況＞

7月から調整傾向にあった小型株については、9月に入ってから一転して優位となり、ほぼ8月のマイナスを取り返す展開となりました。ファクター面では7～8月とは反対に、ローリスク優位、バリュー劣位となったものの、それ程大きな傾向となっていない。

指数面では小型株優位であったものの、7月まで買われていた内需グロースのバリュエーションが戻るといことはなく、市場は盛り上がりません。

先月より、ポートフォリオはややディフェンシブなスタンスを取っており、グロースエクスポージャーも抑制的に推移させました。小型株優位の環境の中で、個性のあるロングポジションが薄く広くプラス寄与となりました。内需グロース株のロングポジションやリバウンドしたショートポジションがマイナス寄与となったものの、大きく足を引っ張ることはありませんでした。

ファンド全体として、プラスパフォーマンスの確保に至ったものの、単純に下がった銘柄が反発している訳ではないため、必ずしも容易な相場環境ではありませんでした。

＜今後の市況見通し及び投資戦略＞

個別に大きな値動きも見られますが、小型株の売買は盛り上がりがないと思われるため、引き続きファンダメンタルに注目した局地的な銘柄選択を行います。

ハイバリュエーション銘柄の調整は継続すると考えますが、業績面で着目すべき点のない割安小型株が評価されることもないと思われず。

上期決算の発表を通過すると、来期以降の業績にフォーカスした株価評価が見込まれますので、足元の業績がボトムと判断される銘柄については、大きな株価反転があると考えます。

個性のある小型株のロング部分で引き続きパフォーマンス確保を狙います。

業績モメンタムの変化に留意し、業績拡大可能な割安銘柄の組入れと、競争力など中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティール・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。